

総合的な学習の時間 指導案

日時 平成19年7月10日(火) 5校時
児童 旭川市立日章小学校 6年礼組
指導者 高田 秀人

1 単元名 「大好き！ 石狩川！」

2 単元について

(1) 単元設定の理由

本校校区には、旭橋、石狩川河川敷を含み、花火大会や冬祭りの会場である石狩川河川敷には、歩いて10分という環境にある。しかし、子ども達にとって「すぐそこにある川」という意識はあっても、自分達の生活にどのように関わりがあるかはあまり気にしてはいないというのが実情である。

本単元を通して石狩川が「身近で自分達の生活との関わりが深い川」であることを気づかせていきたい。同時に、自分達の地域を見直すきっかけにしていきたい。

(2) 単元に関わる児童の実態

「川」に関する学習では、5年生では広い範囲で体験活動を行ってきた。その結果、水の浄化などへの意識がなされていると感じる。ただ、身近な「石狩川河川敷」については、あまり思いつけがなされていない状況である。

本単元の事前調査では、石狩川のイメージとしては、「長い川」「大きな川」と同時に「汚い」「ゴミが多い」といった意見が多かった。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の総括目標

石狩川について活動を展開していくことによって、地域を見していく。また、自分たちの考えや見方を深めていく。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	あらわす力	かかわる力	やりぬく力
石狩川に対して関心を持ち、進んで調べたり、交流したり、自分たちとの生活との関わりを考えようとするができる。	疑問に思ったことや、調べたことを、テーマに沿って発言したりまとめたりすることができる。石狩川のよさを発信していくことができる。	課題の解決などに向けて、友だち同士協力し合いながら、ゲストや地域の方に進んで関わっていくことができる。	自分の思いや願い、見通しをもとに、自分なりの方法で課題解決に取り組むことができる。取組ながら、石狩川のよさを発見していく。

4 研究との関連

(1) 学習対象吟味の工夫

本単元は子ども達の身近にある「ひと・もの・こと」への見方・考え方を広げ、深めることを目指して設定した単元である。本校児童にとって当たり前のように存在している「石狩川」をあえて学習材として

取り上げた。前年度までに社会科や総合的な学習の時間を通して「川」に関しては多くの学習体験を重ねてきている。しかし、それは知識としての学びが中心で、「石狩川」についてより身近に感じる・愛着をもつなど児童が自分との関わりの中で「川」を見つめるような学習の経験はない。自分達の思い描く「石狩川」と他の人々が思い描く「石狩川」との違いに着目させ、石狩川というフィルターを通してより深く郷土を見つめていくことで、児童の「ひと・もの・こと」に対する見方・考え方が広がり、深まっていくと考える。

(2) 教師の働きかけの工夫

総合的な学習の時間の展開の中で、課題が複線化していくことはよくある展開の一例といえる。しかし、複線化したものをまた収束していく時に困難を感じることもある。これは、児童にとって学習課題の共通化があいまいなままに複線化した課題の追求に向かってしまったことが考えられる。そこで、本時では、共通課題つくる場面で教師がどう関わっていくべきかを検証していきたいと考える。

単元の初めに子ども達より聞いた石狩川へのイメージは固定化されたものが多く、学校や地域でインタビューをし、数多くのイメージを集めた。本時はこれらのイメージをカード化したものを分類していきながら共通の課題をつくっていく時間である。本時の学習が児童の児童の共通意識をより明確にするために効果的であったかを検証していきたい。

5 単元構想及び評価計画

単元の全体計画		
	【主な活動の流れ】	【評価の観点方法】
第1時	今まで学習経験の振り返る。 石狩川河川敷へ行き、様々な角度から見渡す。	・意欲的に活動に参加し、自分なりの気づきを見つけることができたか。
第2時	石狩川のイメージや気づいたことを交流する。 色々なひとにアンケートを取る準備をする。	・自分の思いを表現することができる。 ・見通しを持って、調べ活動の準備をすることができる。
第3・4時	石狩川のイメージについてアンケートをとる活動をする。 (買い物公園など)	・積極的に地域の大人に関わり、調べ活動(インタビュー)をすることができる。
第5・6時	アンケートの集計をしカード化していく。	・自分のイメージと比較しながら、集計活動を行うことができる。
第7時 本時	カード化したアンケート結果をもとに、共通の課題を考えしていく。 ・ アンケート結果の分類。 ・ ゲスト～川のおもしろ館職員	・ アンケート結果を分類、類型化を考え進んで表現することができる。 ・ 共通の課題や自分の調べたいことを考えることができる。

単元の全体計画

	【主な活動の流れ】	【評価の観点方法】
第 8 時	調べていることを決め、グループ化する。 調べることへの見通しを持つ。	・前時までの活動より、自分の課題を見つけることができたか。
第 9 12 時	テーマごとに調べ活動をしていく。 ・資料、インターネット、聞き取り調査 など	・グループごとに目標を持って、調べ活動を進めていくことができる。
第 13 時	調べ活動の途中報告をする。 ・共通課題への意識づけ ・他のグループの内容と比較	・意欲的に今後の活動の見通しをもつことができる。
第 14 17 時	テーマごとに調べ活動とまとめ活動を行う。 ・石狩川のよさを見ていく観点で	・よさという観点で協力しながらまとめ活動を行うことができる。
第 18 時	まとめたものの交流 ・今までの石狩川との見方の違いに関して ・ゲスト～川のおもしろ館職員	・まとめたものを相手にわかりやすいように表現していく。 ・石狩川に対して、今までの自分たちの見方と比較することができる。
第 20 ・ 21 時	自分達の地域を見直していく（川を切り口に）	・地域のよさを意識し、交流し合うことができる。

6. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・アンケート結果を分類、類型化を考え進んで表現することができる。
- ・共通の課題や自分の調べたいことを考えることができる。

(2) 本時の展開

主な学習活動	教師の働きかけ 評価
1. 本時の学習内容を確認する。 ・カードをもとにした振り返り。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> アンケートカードを分類して、学習のテーマを考えよう。 </div>	カードをもとに簡単に本時の見通しを持たせていく。
・ゲストの紹介。 2. アンケート結果を書いたカードを分類する。 ・全員で活動。 ・分類したものにタイトルをつけていく。 3. 分類したカードをもとに、類型化していく。 ・類型化しながら様々な疑問を出していく。 4. グループごとに共通課題を考え発表し決定していく。 ・キーワードの確認。 5. 各自が調べてみたいことを考える。 ・数名発表。 6. ゲストに感想をいただく。 7. 本時の学習について振り返る。	分類したものの同士の関わりにも気づくよう声掛けをしていく。 時間の見通しを提示する。 進んで自分の考え交流しながら、カードの分類を進めることができたか。 進んで類型化について、自分の考えを表現することができたか。 子ども達が発言した内容を類型化しながら板書していく。 本時の学習をもとに、学習の課題を考えることができたか。 発言に応じカードを動かしていく。 考える前に、必要に応じ類型化よりキーワードを提示する。 板書しながら決定していく。

(3) 本時の評価

- ・アンケート結果を分類、類型化を考え進んで表現することができたか。
- ・共通の課題や自分の調べたいことを考えることができたか。

7. 場の設定 (ななかまどルーム)



